様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月１２日現在

機関番号：22501
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008 ～ 2010
課題番号：20592572
研究課題名（和文） 孫育児支援プログラムの開発と実用化の検討

研究課題名（英文） Development and evaluation of the Support Program for Grandparents Caring for Infant Grandchildren

研究代表者
石井 邦子（ISHII KUNIKO）
千葉県立保健医療大学・健康科学部・教授
研究者番号：70247302

研究成果の概要（和文）：孫育児支援プログラムの開発と実用化の検討

研究成果の概要（英文）：Development and evaluation of the Support Program for Grandparents Caring for Infant Grandchildren

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
２００８年度	1,400,000	420,000	1,820,000
２００９年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１０年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総 計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・家族看護学
キーワード：家族看護，育児支援，祖父母

１．研究開始当初の背景

(1) 研究の学術的背景

①本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ　乳幼児の育児を子どもの親である夫婦が中心となって行う欧米諸国と比較して、わが国では、父親・母親の実父母を含む拡大家族の支援の中で育児が行われることが大きな特徴である。産後１ヶ月間の支援者に関する調査では、約 2/3 の親たちが母方の祖母のサポートを受けており、次に多いのが父方の祖母のサポートであり、夫婦のみで育児をしているのは、わずか 10%程度であった。里帰り出産後、しばらくは母方の実家で育児を行うことが文化的な風習であったことに加え、近年は実家からの支援を受ける期間が延長している。

乳幼児期の育児において、祖父母からの支援が、母親の育児不安の軽減、母子愛着の促進につながることが認められている。祖父母にとっても、孫の育児に関わることが生きがいであり自らの役目である。祖父母たちが、孫の育児に関わって親たちを支援したいという希望を持ち、すすんで孫育児に参加している実態が報告されている。このように、孫の育児に祖父母が参加することは、乳幼児の親と祖父母の双方にメリットがあると考えられる。

一方、世代間の育児方針のずれや育児方法の違いから来るギャップが、祖父母、父母双方のストレスや、育児負担感、家族関係の悪化を引き起こすことも報告されている。そのため、最新の育児情報の提供を主な目的とする祖父母学級が、医療施設や地方自治体を中心に実施されるようになってきた。しかし、これらの関わり、すなわち、育児経験者である祖父母が新たな育児情報を得たことによって、孫育児支援にどのように有用であったかは実証されていない。

②これまでの研究成果と本研究の着想に至った経緯　我々は、乳幼児期の子どもをもつ家族への育児支援プログラムの開発を目的とした研究の一環として、乳児の孫育児に参加している祖父母に対する「孫そだて教室」を実施してきた。これまでに、最新の育児情報に対する関心は全般的に高い，祖父母の年齢、自らの育児体験、孫の月齢、孫と親の健康状態等によって、求める育児情報は異なる，提供される内容がニーズに合っていないと教室への参加の動機付けにはならない，祖父母は親たちとの関係の持ち方に苦慮している、特に主たる孫の養育者である母親が娘であるか嫁であるかによって問題が異なる，同じ立場にある参加者同士の情報交換は、即座に活用できる点で有用である，同じ立場にある参加者同士の交流は、参加者の情緒の安定やエンパワメントにつながる，ということを明らかにした。そして、多様である孫育児に関する祖父母のニーズを系統的に整理し、現在行われている孫育児支援の効果と限界から改善点を見出し、ピアサポートによる祖父母支援を実現するための看護の方法を見出すことが課題であると考えるに至った。

２．研究の目的

乳児である孫の育児に参加する祖父母が、主体的に孫育児に取り組むことで、父親・母親の育児能力を高め孫の成長を支えるという家族育成を支援できるのみならず、自らのQOL 向上ができるような孫育児支援プログラムを考案する。そのために、孫育児支援に対する祖父母のニーズと現存の孫育児支援の実態を分析する。考案したプログラム案を実施し、その評価を通して実用化を検討する。

３．研究の方法

本研究は、５つの研究プロジェクトから構成された。(1)孫育児支援に対する祖父母のニーズに関する基礎調査，(2)現存の孫育児支援の実態に関する基礎調査，(3)孫育児支援に関連する国内外の文献調査，(4)孫育児支援プログラム試案の作成，(5)孫育児支援プログラム試案の実施と実用化に向けた検討

(1) 孫育児支援に対する祖父母のニーズに関する基礎調査　孫育児に参加する予定の孫の出産を控えた祖父母または１歳未満の孫育児に参加している祖父母に対する半構成面接を実施した。

①面接ガイドの作成　先行研究を基に、孫育児に参加する祖父母が求める孫育児支援について、支援の時期、内容、方法等を把握するための面接ガイドを作成した。

②研究対象者の募集　医療施設・地方自治体等において孫育児支援を実践している看護職から推薦してもらい、文書を用いて研究の趣旨や方法を説明し、同意が得られた者を対象者とした。

③面接調査　面接ガイドに沿って半構成的面接を行った。面接は許可を得て録音し、逐語録を作成した。

④分析　逐語録から、孫育児支援に対するニーズを抽出し、内容分析を行った。

(2)現存の孫育児支援の実態に関する基礎調査　孫育児支援を実践している看護職に対する半構成面接を実施した。

①面接ガイドの作成　先行研究を基に、実践している孫育児支援の詳細と、実践を通して見えてくる孫育児支援の課題等を把握するための面接ガイドを作成した。

②研究対象者の募集　医療施設・地方自治体等において孫育児支援を実践している看護職に、文書を用いて研究の趣旨や方法を説明し、同意が得られた者を対象者とした。

③面接調査　面接ガイドに沿って半構成的面接法を行った。面接は許可を得て録音し、逐語録を作成した。

分析　逐語録から、孫育児支援に対するニーズを抽出し、内容分析を行った。

(3) 孫育児支援に関連する国内外の文献調査　看護および周辺領域における参加型集団指導に関する文献を検索し、孫育児支援への導入を検討した。

(4) 孫育児支援プログラム試案の作成　(1)と(2)のデータの二次分析および(3)の結果を統合し、孫育児支援に対する祖父母のニーズ、現行の孫育児支援実践からの課題、参加型集団指導の方法論を検討し、孫育児支援プログラムの実施時期、内容、方法、参加者の条件(孫の月齢、性別等)を整理して、孫育児支援プログラムの試案を作成した。孫育児支援に関わる専門家に孫育児支援プログラム試案に関する意見聴取を行い、妥当性を検討し、修正した。

(5) 孫育児支援プログラム試案の実施と実用化に向けた検討　１歳未満の孫育児に参加している、または、孫育児に参加する予定の孫の出産を控えており、孫育児支援に関心を持つ祖父母のうち、研究参加の承諾が得られた祖父母を対象に孫育児プログラム試案を実施した。

①研究対象者の募集　研究協力の同意が得られた医療機関において、研究対象候補者および家族に対する案内文配布及び施設内への掲示により、自ら研究者に申し出た研究対象候補者に対し、研究の説明を行った。研究の趣旨、協力していただきたい内容、研究参加の自由意志と辞退の権利の保証、プライバシーの保護、匿名性の保持と個人情報の保護、

研究協力に伴う不利益やリスクと安全性の保証について、十分に説明し、研究参加の同意が得られたら、研究対象者とした。孫育児支援プログラム当日、再度文書にて、研究の趣旨や倫理的配慮等、研究に関する同様の説明を行った。
②データ収集　プログラム実施前に基礎的情報（年齢、性別、家族構成、職業の有無、健康状態、これまでの孫育児経験の有無とその内容）に関する質問紙と評価票の記入を依頼し、その場で受け取った。プログラム実施中の音声を録音すると共に、研修対象者のプログラムや他者の発言に対する反応やプログラムへの参加状況、参加者同士の相互作用等を、観察者が参加観察をしてフィールドノートに記録した。プログラム終了後、評価票への記入を依頼し、その場で受け取った。
③分析　プログラム目標に関する自己評価について、プログラム実施前、実施直後で比較し、その変化を記述した。プログラム目標に関連するプログラム実施中の参加者の発言は、プログラム実施中の録音から逐語録を作成し、プログラム目標に関連する文脈を抽出する。プログラム目標に関連するプログラム実施中の参加者の反応、態度及び参加者同士の相互作用をフィールドノート記録から抜粋し、逐語録から抜粋した文脈と統合して、意味内容を損なわないように抽象度をあげて要約した。分析の妥当性を確保するために、逐語録からの抽出を簡潔に表現したものを研究メンバーで確認した。

４．研究成果
(1) 孫育児支援に対する祖父母のニーズ及び現存の孫育児支援の実態に関する基礎調査　祖父母 11 名に対する面接調査から 178 のコードを抽出し〔孫育児に関する情報や技術を求める〕、〔自分と同様に孫育児をしている人と話す場を求める〕、〔情報を基に孫育児の方法を決定する〕、〔経験を基に孫育児の方法を決定する〕、〔孫育児を励みにする〕、〔加齢に伴う身体的・精神的負担がある〕、〔育児する親を支える〕、〔育児する親を気遣う〕、〔自分のペースを守りつつ孫育児を行う〕の 9 カテゴリーに集約した。看護職者 10 名に対する面接調査から 350 のコードを抽出し、〔担当者〕、〔担当者の考え〕、〔参加者の背景〕、〔参加者のニーズ〕、〔内容〕、〔参加者の反応〕、〔課題〕等 13 のカテゴリーに集約した。
(2) 孫育児支援に関連する国内外の文献調査　諸外国における孫育児支援は、対象特性、ニーズ、母子の健康状態が日本とは異なることから、孫育児支援は日本文化や日本人特有の価値観を尊重して実施することの重要性が提示された。

(3) 孫育児支援プログラム試案の作成　(1) の結果に基づき、孫育児支援プログラムの介入目標（大目標３項目，小目標９項目）を設定した。孫育児力向上：孫育児に必要な情報を獲得する，自分に合った孫育児の方法を決定する，自らの孫育児に自信を持つ，家族関係調整：孫育児における自分の役割を遂行する，両親の育児方針や育児方法を尊重する，孫育児に関する両親との相互理解が深まる，エンパワメント：孫育児を通して生きがいや喜びを見出す，孫育児を通して自己の存在価値を再認識する，孫育児を通して社会とのつながりを再認識する、であった。
介入目標に沿って有効なプログラムを検討した結果、看護者による情報提供と参加者同士の交流・情報交換による，最新の育児情報（授乳・離乳食、おむつ、孫の成長と育児、事故防止）、祖父母の役割、親たちとの関係づくりを内容に盛り込む，時間は 90 分以内で１回完結型，というプログラムの骨子を決定した。また、随時参加者が発言できる参加型集団指導であり、経験談が自然発生的に引き出されるように配慮することとした。併せて、情報提供に用いる教材(パンフレット)を作成した。研究者２名がファシリテーターを務めることとした。詳細は以下の通りであった。
①趣旨説明・調査票記入(5 分)
②自己紹介（15 分）孫の月齢（予定日）、孫育児の実際（または予定）、両親との関係性、参加目的、期待すること
③最新育児情報の紹介と質疑応答(15 分)各回のトピックスについて紹介、参加者からの質問、関心のある事柄を追加、参加者の経験、質疑応答（参加者の経験からの回答を含む）
④孫育児体験談(20 分)　参加者の中から孫育児経験の豊富な方の体験、孫育児の実際（日頃どのような孫育児をしているか）、両親との分担、付き合い方の工夫点、健康管理の方法、孫育児に伴う感情
⑤フリートーク(20 分)
⑥まとめ、事後評価(5 分)
介入目標に基づき、プログラム前後の参加者自己評価（尺度による得点化と自由記載）およびプログラム実施中の観察データと逐語録の分析による評価方法を開発した。
(4) 孫育児支援プログラム試案の実施と実用化に向けた検討　孫育児支援プログラムの実施回数は２回、参加者は延べ８名であった。看護者の情報提供をきっかけに参加者同士の交流が活発に行われ、プログラムの構成は良好であったと評価した。孫育児に必要な情報の獲得、自分の役割の遂行と両親の育児の尊重、孫育児を通してのエンパワメントに関する目標の達成がみられたが、自分に合った方法の決定や自信の獲得は十分な効果が得られなかった。実用化に向けて、参加者主体のプログラム運営のための看護技術の開

発と参加者確保に向けた検討が課題であることが提示された。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）
①石井邦子，井出成美，佐藤紀子，林ひろみ，孫育児に参加する祖父母が持つ孫育児支援に対するニーズ，千葉看護学会会誌，16(2)，27-34，2010，査読有
②石井邦子，乳児期にある孫をもつ祖父母に対する孫育児支援活動の実際と課題，母性衛生，52(2)，掲載予定，2011，査読有
〔学会発表〕（計４件）
①K. Ishii，N. Sato，N. Ide，H. Hayashi，Development of the Support Program for Japanese Grandparents caring for Infant Grandchildren: Based on the Evaluation of the Satisfaction with Grandparents' Needs，the 14th East Asian Forum of Nursing Scholars，2011，査読有
②石井邦子，井出成美，佐藤紀子，林ひろみ，乳児期の孫を持つ祖父母のニーズ充足状況からみた孫育児支援活動の評価，千葉看護学第16回会学術集会，2010，査読有
③石井邦子，乳児期にある孫を持つ祖父母に対する孫育児支援活動の実際と課題，第12回日本母性看護学会学術集会，2010，査読有
④石井邦子，井出成美，佐藤紀子，林ひろみ，孫育児に参加する祖父母が持つ孫育児支援に対するニーズ，千葉看護学第15回会学術集会，2009，査読有

６．研究組織
(1)研究代表者
石井　邦子（KUNIKO ISHII）
千葉県立保健医療大学・健康科学部・教授
研究者番号：70247302

(2)研究分担者
佐藤　紀子（NORIKO SATO）
千葉大学大学院・看護学研究科・准教授
研究者番号：80283555

(3)連携研究者
井出　成美（NARUMI IDE）
千葉大学大学院･看護学研究科・特任研究員
研究者番号：80241975

林　ひろみ（HIROMI HAYASHI）
千葉県立保健医療大学・健康科学部・准教授
研究者番号：90282459

遠藤　恵子（KEIKO ENDO）
山形県立保健医療大学・保健医療学部・教授
研究者番号：00310178

北川　良子（RYOKO KITAGAWA）
千葉県立保健医療大学・健康科学部・助教
研究者番号：80555342

(4)研究協力者
荒木　暁子（AKIKO ARAKI）
千葉県千葉ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ・副看護部長
研究者番号：60251138